

特集2

新春トップセミナー パネルディスカッション

「人類と科学はどうあるべきか」



コーディネーター
更家 悠介 氏
サラヤ株式会社 代表取締役社長
生産技術振興協会常務理事

パネラー
花山院 弘匡 氏
春日大社宮司

パネラー
山本 良一 氏
東京大学名誉教授

(更家) まず山本先生、花山院先生ひとことづつお願いします。

(山本) 地球のような惑星はどれくらいあるか？というと、過去50年のさまざまな議論を私なりに検討すると、地球のような惑星は、宇宙全体でもきわめてめずらしいのではないかと考えています。ケプラー宇宙望遠鏡が打ち上げられて、銀河と銀河の衝突やブラックホールの合体など、ありとあらゆる現象を目にするようになった。観測可能な宇宙の半径は500億光年くらいと言われている。知的な生命が進化を遂げて安定的に発展していく確率は極めて小さい。これだけ巨大な宇宙でも地球のような文明を持った惑星はな

かなか出来ない。

花山院先生には自然神道と同様に地球神道も考えていただけたらと思います。

(花山院) 地球への恐れ、崇りがくるんだということが、先進国の人も発展途上国の人も知的な人もいろいろな人も共感できるものだと思う。先生の言われたことを行っていかないと地球が大変なことになると地球人全体が考えないといけない。地球への恐れや崇りというものを感じていくことを教育していくことが考えられるのではないかと先生のお話を聞いて感じました。



(山本) デンマーク工科大学のグループが世界4万社の環境報告書を分析して、その結果、4万社の報告書に地球には限界があるということを書いているのは5%にすぎない、95%の企業は、まだ地球は無限だと考えて企業経営を行っている。この考え方を転換していかないといけないと思います。これからの科学技術の研究も地球が有限であり、極めて貴重であることを考えながら研究を行う時代が来たと思います。

(更家) 会場のみなさまからご質問やご意見がありましたらお受けしたいと思います。

(質問者：大和) 生駒の山で活動していますが、最近ナラ枯れで木が枯れていっています。春日大社はどういった状況でしょうか？

(花山院) ナラ枯れは起こっています。どれだけ効果があるかは分かりませんが山の中でナラ枯れの虫

を駆除したりしています。

(更家) 最後に大商副会頭の古川さんに感想でも結構ですのでひとことお願いします。

(古川) 地球は有限である。日本人は自然と共生していく。ということは、この会場におられる方全員が認識したと思います。

地球温暖化は、やさしい気持ちだけではどうしようもないところまで来ています。政府に陳情へ行っていますが動かない。選挙があるので10年後、20年後、50年後の地球温暖化より、今日明日の問題や誰が投票してくれるということになる。我々も行動し、政治をうまく動かしていかなければならないと思います。

また、地球温暖化を克服するのは、技術革新しかないと思います。再生エネルギーを含め技術開発を如何に行っていくか、我々が団結していくしかないというのが私の今日の感想です。

(山本) 欧米で気候の非常事態宣言が広がっています。日本でも欧米と同じように動くべきではないかということで、1700の市区町村の首長へ請願書を送り、3週間前から署名を集め、今日現在180名を超える方に署名をいただいています。経済同友会の代表幹事やノーベル物理学賞受賞の先生、さまざまな方からいただいています。大阪大学の関係者の方もぜひよろしくお願いします。日本エシカル推進協議会のホームページに掲載しています。

